

漢詩の創作について

国語教育専修・太田亨

1、授業の概観

本授業は2年次に行う授業である。漢詩は小学校から教材として取り上げられている。小学校では、音読を重視するが、高校になると、指導要領の中で漢詩を創作することを推奨している。以前から漢詩を創作することに興味を持っている学生は存在した。そこで、本授業では漢詩の創作について考察することにした。

本来の漢詩創作と学習指導要領が推奨する漢詩創作は大きく異なっている。そこで、まず本来の漢詩創作について詳しく理解し、その後、学習指導要領の漢詩創作の要点を理解し、漢詩創作の意義についてより深く理解することを目的とした。

上記の目的を達するために、学生には次に挙げる三つの到達目標を課した。

- ①漢詩に関する事項、詩人の人生と作詩背景を理解することができる。
- ②日本の辞書・参考書・解説書を利用することができる。
- ③中国文学、特に詩に関心を持つ。

実際の授業では、まず本来の漢詩創作に当たった規則「平仄」「二四不同・二六対・反法・粘法」等について、それぞれの項目をグループで調べ発表を行った。その発表で不明な点についてグループ毎に話し合い、それらについては教員から補足説明を行った。その後、実際に各自で本来の漢詩規則に則って漢詩を創作した。次いで、各自の漢詩をグループの中で発表し合い、漢詩創作に対する理解を深めた。漢詩の規則を理解した後、学習指導要領及びその解説を提示し、高等学校で望まれる漢詩創作のあり方について説明し、グループ毎に、本来の漢詩創作と学習指導要領上の漢詩創作の長所と短所について話し合いを行った。

一連の授業後にアンケートを行った。

2、学生アンケート及び結果

まずは授業の概要について5項目のアンケートを選択形式で行い、その後、授業の理解・感想・意見について、4項目のアンケートを記述式で行った。以下、その項目と結果である。回答者は20名である。②～⑤について、アンケート用紙には、マイナス要素を含む選択肢も当然あるが、0

名の場合は省略した。⑥～⑨に関しては全員が非常に詳しく記述していたため、数名の回答のみを取り上げる。

- ①、シラバスの説明（授業の概要）はありましたか。（あった：20名 なかった：0名）
- ②、授業における教員の態度（熱意や言動や学生に対する対応等）は適切でしたか。（大変適切だった：18名 まあまあ適切だった：2名 ふつう：0名）
- ③、授業には興味を持って臨むことができましたか。（臨むことができた：12名 まあまあできた：7名 ふつう1名）
- ④、発表資料の作成・課題作成を含めて、授業外の学習をどれほどしましたか。（かなりした：13名 まあまあした：5名 ふつう：2名）
- ⑤、授業を通して、漢詩の理解は深まりましたか。（かなり理解できた：5名 まあまあ理解できた：14名 ふつう：1名）
- ⑥、「漢詩の形式」「平仄」「二四不同・二六対・反法・粘法」「下三連を禁ず・孤平を禁ず・絶句の平仄・律詩の平仄」「押韻・対句・典故・構成」の項目について、あなたはどれほど理解したと考えていますか。また漢詩の規則について、あなたが考えるところを教えてください。

・漢詩の規則は難しいです。どの規則もある程度は分かりましたが、今でも概要プリントを見なければ自信が持てません。なので、頭では理解していても使うことができないという程度の理解です。漢詩の規則について、私は大変だと思います。一つ狂うと全てがだめになってしまう。規則に縛られると、伝えたいことが伝えられなくなってしまふ。凡人には難しいです。正直、授業で規則を守っていない詩を見たときは、規則を守ろうよ、と思っていたのですが、守ることの大変さを身をもって学びました。だからこそ守れたときは達成感を感じました。漢詩を作るのはこりごりです。言いたいことを上手に言い換えることが私にはできません。規則を守りながら語句をならべるなんて、言いたいことを言えないもどかしさに頭を抱えてしまいます。みんなそうだから規則を設けているのかもしれませんが。昔の人は凄いです。

⑦、高等学校学習指導要領に書かれた漢詩創作について、あなたはどのように考えますか。

・学習指導要領では、語彙や表現の技法を参考にして、とあるように平仄まで学習することは考えられていない。漢詩を創作することによって、実際に学習した内容を実践してみることができ、学習内容の復習になったり、より深い理解につながるものが予想される。また、漢文的表現を理解することも可能となり、これは日本で書かれた漢文と和文の違いに気付く手がかりになると思われる。以上のことから、高校で漢詩を創作することで、学習の復習ができることや日本の言語理解につながる良い学習になると思われる。

(反対の意見も当然あるが、紙面の都合上省略)

⑧、漢詩の規則に則った漢詩創作と指導要領で示された漢詩創作とは、どのような違いがあると考えますか。

・指導要領で示された漢詩創作では、平仄による規則を気にせずに漢詩を作ることになっている。規則通りに漢詩創作を行ったときに、平仄の規則によって使いたい言葉が使えずにもどかしくなることがあった。そのため平仄を気にしなければ好きな言葉を使うことができ、漢詩への関心が高まると思う。平仄に関する規則は複雑であり、規則を完璧に守ることは難しい。高校生に平仄の規則を理解させるのは非常に時間がかかるため困難だと思われる。一方で、平仄を理解して規則に則って漢詩を創作することで、漢詩の本質に触れることができ、また、平仄の合った語句を調べるため、語彙力が上がる効果も考えられる。

⑨、実際に高校生に漢詩創作を指導する場合、どのように指導するのが適切だと思いますか。あなたの考えるところを教えてください。

・漢詩創作を生徒にさせることで身につかせたい能力に「自分の思いを漢詩を用いて表現する」ということをあげる。まずは内容が充実しているかを生徒に丁寧に問かけるようにしたい。そのために起承転結の展開を創作前の事前指導に取り入れたい。押韻についての取り扱いは全く無視するのではなく、教師があらかじめ韻目の揃った漢字をまとめて生徒に示すのがよいのではなかろうか。平仄はとり扱わない方がよいと思う。活動自体は、個人で創作し、グループで精度を高め、個人創作にフィードバックする。「自分の思い」が表現できる達成感につながる活動にしたい。

3 アンケート結果について

①～⑤の結果を見ると、教員の対応や授業の進行については、それほど不満はなかったと思われる。

⑥～⑨の回答については、20人それぞれが非常に詳しく丁寧な回答をしていた。漢詩創作について、実際に教員になった時を想定し、どのようにすれば良いのか真剣に考えた結果だと思われる。漢詩本来の規則については、中国文学の研究者でも非常に難しい。学生はグループワークを通して規則について詳しく調べ、深く理解していたことが窺える。

⑥については、これまで漢詩を読むだけであっただのに対し、創作するに当たっては、とてつもなく難しい規制があることを知り、高校時代に較べて遥かに深い理解をするも、実際にそれを身につけるのは無理という意見が多かった。

⑦については、漢詩創作の授業を行うこと自体。教員にとってハードルが高いと感じている学生が多かった。平仄が無理なのは当然であって、それ以外にも、日本語の語順と漢文の語順が違うことを指導したり、詩句の切れ目をどうするか指導するのは難しいと考えている学生が多かった。

⑧については、生徒に平仄を理解させることがそもそも難しいが、それを知って漢詩を作るのと知らないで漢詩を作るのでは大きな違いがあるというのは皆一致していた。平仄を知らなければ自由に創作できるメリット、知っていれば語句を工夫し、語彙が増えるというメリットがあるという学生が多かった。

⑨については、漢詩創作はかえってさせない方がよいのでは、という意見があった。またさせるにしても、平仄は教えない方がよいという意見が多かった。

まとめ

学生に本来の漢詩創作の規則を教えることで、学生の漢詩に対する関心・理解は例年になく深いものとなった。学生のアンケートを見ると、教員の方が大いに考えさせられた。この学生の感想・意見を来年度の授業に活かしていきたいと考えている。学生と共に教員も学べる授業展開を心がけたい。